

『私の幼年時代』

【最初に】

このホームページは本年4月に正式に開設しましたが、「校友の声」は準備段階の本年1月から校友に寄稿していただきましたので、丁度1年になります。この間に22名の校友から寄稿いただきました。ありがとうございます。

毎月「校友の声」を読むのを楽しみにしています。

今後ともご協力いただきますようお願い致します。

【南京の頃】

私の先祖は、現在私が住んでいます「奈良県香芝市逢坂」の出身です。

私の祖父は勤務の関係で奈良県外に出ましたが、勤務していた会社を退職後に、熊本県熊本市内で土木・建設業の「出川組」を創業しました。祖父母には4人の息子がいましたが、私の父は長男です。「出川組」は中国大陸に企業進出することになり、長男の父が赴任して南京に支店を開設しました。

これから話します「南京～ソウル～釜山の頃」の事は、私には殆ど記憶がありませんので、亡父母から聞いたものです。

私は昭和16年5月17日に南京で生まれました。私の現在の戸籍の出生地には、中華民国南京市と記載されています。私が生まれた付近の中山路（現在の新街口地区）は南京の中心商業地です。

当時、私の家族は裕福な生活をしていたらしいです。両親には3人の息子がいましたが、長男の兄、二男の私、三男の弟のそれぞれに、中国人の娘さんの子守役が付いていました。私の子守役は、漢字は分かりませんが「アイチン」という名前の娘さんだったそうです。家族で食事をしている時に母が止めるのも聞かずに、私は使用人の中国人が食事をしている別の部屋によちよちと行って、「アイチン」の膝に座って一緒に中華料理を食べたこと也有ったようです。私は今でも中華料理が大好きですが、この時の影響でしょうか。

「出川組」は旧日本軍の工事も請け負っていましたので、父は憲兵との付き合いもあ

ったようです。父は憲兵から“いざれ旧ソ連軍が日ソ不可侵条約を破棄して、満州に侵攻してくるだろう”と聞いたようです。

南京は内陸部に位置しますので、父はこのまま南京に居ては地理的に危ないと判断して、韓国のソウル（当時の京城）に転居する決断をしました。父のこの決断と行動がなくて終戦まで南京に居ましたら、私は中国残留孤児になっていたかもしれません？

【ソウル～釜山の頃】

ソウルに引っ越ししてきました。

日本の敗戦が色濃くなってきたので、父は満州にあった工事現場を閉鎖に行きました。父が満州に滞在している間に、旧ソ連軍が満州に侵攻してきました。

昭和20年8月15日の終戦の日を、母と子供3人はソウルでむかえました。

父からは母に何の連絡もありませんでしたので、母は父が死んだか、旧ソ連軍に捕まつたかと思い、帰国するために子供3人を連れて釜山に向かいました。

釜山港で引き揚げ船に乗船する頃には、母と子供3人は栄養失調に近い状態になっていたようです。母は軍票（旧日本軍が発行したもので本来は手形であり、最終的には正貨と交換できる）を後生大事に持つて引き揚げ船に乗船しましたが、日本国が敗戦で破綻しましたので、その軍票は紙切れになりました。母は地元の船をチャーターして荷物を内地に送りましたが、その荷物は戻ってきませんでした。

一方、父は旧ソ連軍に捕まり収容されましたが、父は京都府出身の男性2人と一緒に脱出したようです。昼は物陰に身を潜めて眠り、夜に歩いたようです。現在の北朝鮮との国境近くまでに来たところで、父は足の怪我が化膿して歩けなくなりました。共に行動してきた京都府出身の男性2人とそこで別れて、先に行ってもらったようです。父は近くの民家に助けを求めました。幸運にも父は匿ってもらい、治療もしてもらいました。

【下関の頃】

母と子供3人は無事に門司港に引き揚げてきました。

母は東京都の出身ですが、母の兄が東京から山口県下関市内に転勤していました、母方の祖母も一緒に住んでいましたので、母と私と弟の3人は下関の母方に身を寄せま

した。兄は熊本の父方の祖父母に預けられました。

母は待ちわびていたと思いますが、父が無事に帰国しました。父は何も話しませんでしたが、終戦の時に現在の北朝鮮に住んでいた母方の遠縁の女性から、旧ソ連軍から逃れるために朝鮮半島を南下する時の悲惨な話を聞きました。

父は仕事を見つけて家族を呼び寄せる準備をするために、奈良県香芝市（当時は北葛城郡下田村）逢坂の親戚宅に一時お世話になることになりました。弟が結核を患ったので、母の姉の夫が秋田県能代市内で経営していた病院に入院させるために、母は弟を連れて能代に行きました。伯父は入院中の弟にペニシリン注射等の治療をして頂きましたので、弟は元気になりました。兄は熊本、私は下関です。この一時期、私の家族は散り散りになって寂しかったのを覚えていますが、私は母方の祖母に良くして頂きまして、大変感謝しています。

【芦屋の頃】

父は兵庫県芦屋市内で取り敢えず家を借りて、家族全員を呼び寄せました。小さな貸家でしたが、四男の弟が生まれていましたので、家族6人が一緒に楽しい生活が始まりました。食糧難の時代でしたので、母の手料理は質素なものでしたが、家族全員での食事と団欒が嬉しかったのを覚えています。

そして、私は昭和23年4月に兵庫県芦屋市立精道小学校に入学しました。

『私が生まれてから小学生になるまでの7年間の幼年期』の話にお付き合いいただきまして、ありがとうございます。

【最後に】

この戦争で亡くなられた多くの人々のご冥福を心からお祈り致します。

現在、日本と中国、韓国、北朝鮮、ロシアとの間には困難な問題がありますが、この国々とより良い関係を築き、日本が平和な国でありますことを願います。

平成25年12月20日

昭和42年法学部卒 出川 邦雄